

森本六爾 もりもと りくじ 考古學者。明治二十六年二月（日本奈良縣磯城郡織田村生れ、昭和十一年一月二十一日歿（一九三二））。筆名木山赤樵、森本とよし、森本豊志、善穂。大正九年縣立畷傍中學校卒。國學院大學を受験、合格するも入學せず。翌年日本考古學會入會、十二在東京高等師範學校校長に宅米吉の副手となる。昭和二年有志と考古學研究会を興し、雑誌「考古學研究」を創刊。四年研究会を東京考古學會と改稱し、翌年「考古學」を創刊。六年フランスに留學。松本清張の「斷碑」（初題「風雪斷碑」）は森本のモデル小説として有名。著書「日本青銅器時代地名表」（編、昭和四年六月十五日同書院）、「遺稿集」（日本農耕文化の起原―考古學上より見たる日本原始農業の研究）（昭和十六年八月十五日、復刊・二十一年九月十日華洋書房）等。傳記は、藤森栄一著「一粒の粉」（昭和四十二年十月二十日河出書房）、浅田芳朗著「考古學の殉教者―森本六爾の人と業績」（昭和五十七年十一月）二十五日柏書房株式会社）等。

